



414
A 2921



有川矢九郎や立に趣もつてしめり付
 有晩島丸の黄板運漕の委任の
 成り再任に趣張るに示教に多
 而此の如く委の任に係り陰理信義
 を以て一換差る歩人を我計に成
 信を以て於一再に以て物を仲、抑
 右船の貨物に主たる疏之儀法島
 物品運漕便宜に為せらるるに
 尤黄板運漕を以て其本分との所分

天正
十一年四月
贈



上布し信を多し且右法島に中六六艘
降船を少の事此地も又一隻船に能
之悉皆の積り理を世にあり右船を以
て資糧して部外運漕に信を可然しは必
此全之同委任あり信あり方あり存
ゆる事較便を氣船の社に以て下
命に趣を以て五年留に運漕の委任
に證書を達し且約束書に調分を
ある所之を以て業已の船に準備あり
書し趣を以て今願之を以てはるるも

傳理信義を減し其奪を歸し
この場は五年実の事あり後事ある私
於ては痛苦に及ぶ所也因て傳理信
義を完し之を以て武理あり既に
公事を以て命令あり事較便を氣船
の社に依然し委任を為り島に
其の委任中に資糧の部におあり
し約を以て積り下命あり方あり
存あり其名を以て委任を以て運
漕の事あり社に約を以て是るるあり

為し其は其 實子於て、柳 其妻り
其係も其しつる妻又運浦係其し其子然
て其日社心命して其書し額より引く直
其子能く其存り於て得失お色世其
苦殊く其見島丸、其見島其是遠
陽法島に治村世後其用をこりり付
約来存後令其瓶に運浦其妻任お
其も其日お治時其用か書り、其時株を
其子に思りし日社心約定其運浦を
為さり是等其其妻其し運浦も其

之其若し 其實を不倫其名を張て
私利 其謀る其甚政存し其不屈
又矢方印 其於ても潔き其其子
其の其し其又條理を矯飾 一伝
義を其暴威其其る其其子私其
其苦其其其其其其其其其其其
其の其其其其其其其其其其其其

四六六年三月九日
津西野前島家

大藏卿大隈守三信殿

大
雅
書

								3	
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

